

◇ 八国山緑地 生物多様性保全利用計画

3. ゾーニング

現況植生図をもとに、テーマを踏まえて保全利用計画のゾーニングを設定した。

▼ ゾーンの内容

記号	ゾーン	ゾーンの内容
ふたつ池谷戸保全ゾーン		
1-1	谷底林保全区	ふたつ池の谷治いの園路を中心とした範囲を、クヌギ主体の落葉広葉樹林とし、里山に生息する多様な生物の生息空間を保全する。林床に外来種の侵入を防止し、在来種の生育を促進する。
1-2	若齢林保全区	送電線下の伐採地を、萌芽再生林とし、明るい環境を創出することで里山に生息する多様な生物の生息空間を保全する。萌芽更新は、樹冠がうっぺいする前（15年程度）を目安に順次伐採し更新する。
1-3	ハッファー樹林	谷底林保全区に外来種を侵入させないハッファーとして、明るく開けた環境である若齢林保全区ゾーンの緩衝帯として、適度に維持管理された落葉広葉樹林とする。
1-4	里山体験・自然観察林	ふたつ池と萌芽再生林との間の範囲を、コナラやクヌギ主体の落葉広葉樹林として積極的な維持管理を行い、里山に生息する多様な生物の生息空間を創出する。
1-5	ハンノキ林	地域では希少となったハンノキ林及び湿地林の景観を保全する。また、ミドリシジミが安定して繁殖できるように若齢木のハンノキに更新するなどの積極的な管理を行う。
1-6	上池・下池	ふたつ池と呼ばれる上池・下池及びその周辺の範囲で、八国山緑地の唯一の水場として、水辺に生息する生物の安定した生息環境を保全する。
1-7	湿地・ヨシ池	ハンノキ林下流側でヨシやガマ等の水生植物が繁茂している湿地及び人工的に掘り下げて作られた池において水辺環境を再生し、水生植物群生の保全及び開放水面の拡張を図る。

記号	ゾーン	ゾーンの内容
樹林ゾーン		
2-1	雑木林（林床が草地タイプ）	コナラが主体の落葉広葉樹林のうち林床が管理されている範囲で、明るい林床の景観的に美しいと思える落葉広葉樹林とし、里山の動植物の生育・生息環境を保全する。
2-2	雑木林（林床が低木タイプ、ササタイプ）	本公園の樹林のうちあまり林床が管理されていない、又は管理されにくい範囲で、現状の維持及び常緑広葉樹への遷移を抑え、里山に生息する生物の生息空間を保全する。
2-3	アカマツ・コナラ林	尾根付近のわずかに残るアカマツの保全と育成を図る。現状のコナラ主体の落葉広葉樹林の景観を保全しつつ、かつて多く生育していたアカマツが多い林を再生する。
草地		
3-1	原っぱ	現在、草地として維持管理されている範囲を、管理頻度により草丈を変え、草地環境における昆虫類の多様な生息環境を創出する。
3-2	ススキ草地	草地として維持管理されている場所ですスキ草地を保全及び一部ではススキ草地を新たに創出する。
3-3	高茎草地	樹林地に接した林縁環境が存在する草地の一部に、高茎の草本類が優占した空間を創出する。